



「南風俳句会」主宰で、広報とば文芸欄の俳句選者でもある小浜町の増田河郎子さんの功績をたたえる句碑が、母校の小浜小学校の校庭に建てられ、9月21日、除幕式が行われました。

会員のかたたちによって建てられたこの句碑には、鳥羽湾にかかる虹の光景を詠んだ増田さんの句「海風がバ 虹の全円 整はむ」が直筆を基に刻まれており、8年前に岐阜県下呂市に建立された増田さんの句碑と対をなしています。

文化の香り高き小浜浦



年齢にとらわれず自らの責任と能力において、自由でいきいきとした生活を送る高齢者に贈られる内閣府の平成20年度エイジレス・ライフ実践者に、相差町の野村禮子さんが選ばれ、10月9日、野村さんの海女小屋「はちまんかまど」で授与式が行われました。

野村さんは、現在も海女を続けていること、海女小屋を観光客に開放し、10人の海女仲間たちと協力して海女経験を語り伝えるなど、海女文化の発信や継承、誘客に大きな貢献を果たしていることなどが評価されました。授与式では、「これからも海女文化を語り継いでいきたいです」と決意を新たにしていました。

海女文化を語り継いでいきたい

まちの話題 旧号



10月20日、鳥羽小学校講堂で狂言の鑑賞会が行われました。

この催しは、こどもたちに古典芸能の良さを知ってもらおうと鳥羽市能楽保存会が企画したものです。6年生の国語の教科書で紹介されている狂言「柿山伏」を伊勢市在住の狂言師森浩一さんとお弟子さんが熱演した後、保存会の下村優太君と城山志都さん（いずれも鳥羽小3年）が狂言「伊呂波」を披露しました。

こどもたちは、教科書では味わえない貴重な体験に目を輝かせて、感動の拍手を送っていました。

古典芸能を目と耳と心で鑑賞



島の旅社推進協議会が、市をはじめ各種団体の協力を得て韓国・済州島の海女さんらを招き、9月19日から21日まで「日韓海女文化交流会」を開催しました。

海女さん一行は、初日に市内の海女関連施設を見学した後、答志・神島・菅島で、地元の海女さんたちと交流しました。交流会では、韓国海女唄の披露に島の海女も飛び入りして一緒に踊るなど、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

また、食事も取らずに5時間も潜るといふ韓国海女の話に驚くなど、互いの海女文化について意見交換し、日本と韓国にしかない海女文化を大切にしていきたいことを誓い合いました。

韓国の海女さんと交流